

御尊父様

(長閑注記1)

〔(朱書)上書東京第一大学区開成学校と認來り〕」

(長閑注記2)

〔(朱書)七月十四日達し〕

〔此返事七月廿九日此方第十五号ヲ以郵便へ出し〕」

35 明治6年7月6日 菊池長閑宛

(長閑注記1) 第十号 七月六日認む (長閑注記2)

本月一日橋場御屋敷ニ式拾円献上仕候所世公拝謁被仰付且酒肴を賜り難有退殿仕候當節五円以上之献金無之處右御進納ニて嘸老公ニも御満悦可有之と近侍嘶居候左て此度新築ノ舍殆ト落成ニ候得共下等私費生入舍難相成私之費用如何致候やと監事より尋吳候故実ハ可成丈下等私費ニて少しも長く修業致且聊なりとも親之迷惑を省キ申度候得共如何なれハ不得止次第ニ付先上等之費用を納め入舍致度候尤其親へ相談之上其辺変候事も可有之哉と難計候間此段御含被成下度旨返答致置候退舍之義ハ兼テム御不本意ニ候ハ存居候得共御賢慮奉伺候折角樂ニ致居候新舍ハ不都合ニて大ニ失望罷在候

藤村わ大藏省紙幣寮ニ出仕致當時ハ十三等ニ候得共那珂先生生活計之一助ト可相成ト存居候先生塾中ニ文なれ可な〔抹消れ共〕り詩を作とて噪候書生も有之世の中とハ随分種々ノ人物有之候先ハ斯ニ閣筆して首報を奉待上候頓首  
武夫拝